診療局：内科《総合内科・感染症内科》

ースタッフ紹介ー

役　　職	スタッフ名
総合内科・感染症内科部長 兼感染症センター長兼院内感染対策室長 兼臨床研修センター副センター長兼産業医	倭　正也
膠原病内科部長 兼リウマチセンター長	入交　重雄
医長兼国際診療科医長	名倉　功二
医　長	葛城　有希子
医　員	関　雅之
医　員	山本　雄大

総合内科・感染症内科

ー概要ー

現在の医療は高度の専門化が進んでいる一方で、様々な病気を併せ持つ患者に対して「全人的医療」を行うことのできる医師が少なくなっている。そこで当院では2013年4月より総合内科・感染症内科を新たに立ち上げ、診断のついていない症状ではじめて当院を受診され、どの専門科を受診すればよいかわかりにくい患者に対して、専門分野を横断的に診療する幅広い総合診療を行っている。さらにその際に感染症および膠原病の診療を行う機会も多く、これも当科にて診療を行っている。

具体的には、一般内科疾患全般（内科救急疾患を含む）をはじめ原因不明の持続する発熱（不明熱）、関節痛などといった症状を持たれた患者の外来、入院診療を行っている。またその際に、高度な専門医療を要する場合には適切な各専門科に紹介させていただいている。さらに、当科以外の各専門科において入院治療を要する患者に対しても、専門科と良好なコミュニケーションを保ち、多角的に相互補完するバランスのとれたチーム医療を実践し、患者の全身管理のサポートを行っている。

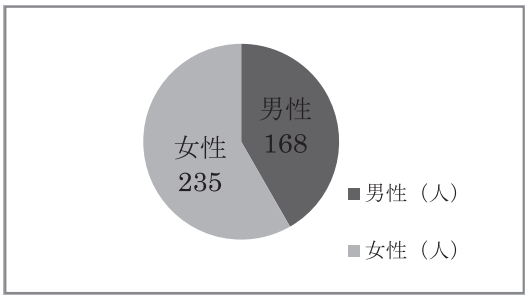
また、輸入感染症の診療も当科の重要な任務の1つである。当院は、厚生労働大臣指定の我が国で4か所の特定感染症指定医療機関の1つであり、西日本では唯一である。当科にて感染症センターに入院された患者の診療を行っている。特に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の診断、診療を行っている。

2013年4月、りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターがひとつの病院として統合した。救命救急センターとの相互連携を深め、救急医療を含む総合診療と高度な専門医療とが多角的に相互補完する、これからの地域医療を支える新たな診療体系の構築を目標に、総合診療の強化を目指している。

ー実績ー

◆外来初診患者数（2020年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	9	12	19	17	13	17	31	18	10	14	9	14	168
女性	14	9	31	13	21	30	37	18	11	20	19	23	235
合計	23	22	50	30	34	47	68	36	21	34	28	37	403



◆入院患者数（2020年度）

新入院患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
14	15	24	38	44	29	19	28	27	22	10	20	290

延べ入院患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
284	303	299	633	609	573	288	449	561	659	500	534	5,692

A 循環器系	
高血圧症	2
心房細動	1
洞不全症候群	1
B 呼吸器系	
サルコイドーシス	1
咳嗽	1
閉塞性換気障害	1
C 消化器系	
胃ポリープ	1
ピロリ菌感染症	1
逆流性食道炎	1
胆嚢炎	1
慢性胃炎・萎縮性胃炎	2
下血	1
急性腸炎	3
胆管拡張	1
イレウス	1
膵炎	2
肝機能障害	3
胃腸炎	1
B型肝炎	1
脂肪肝	1
総胆管結石	1
膵のう胞	1
便秘症	1

D 腎泌尿器系	
慢性腎不全	1
ネフローゼ症候群	1
腎結石症	1
尿路感染症 （腎盂腎炎・膀胱炎）	6 3
血尿	1
E 脳神経系	
なし	
F 膠原病・自己免疫	
リウマチ性多発筋痛症	1
関節リウマチ	3
レイノー現象	1
多発性筋炎	1
RS3PE症候群	2
IgA血管炎	1
成人スチル病	1
G 筋骨格系	
脊柱管狭窄症	1
脊椎圧迫骨折	1
頚椎椎間板ヘルニア	1
骨折後変化	1

H 内分泌・代謝系	
甲状腺腫	1
糖尿病	1
痛風	1
脂質異常症	2
甲状腺中毒症	1
I 精神疾患	
心身症	1
心因性ストレス	1
J アレルギー	
薬剤アレルギー	1
食物アレルギー	1
K 外傷性	
なし	
L 癌・腫瘍	
胃癌	2
肺癌	2
大腸癌	5
骨腫瘍	1
大腸腺腫	1
悪性縦隔腫瘍	1
肺・骨移転	1
縦隔多発リンパ節移転	1
後腹膜腫瘍	1

M 血液・造血器	
鉄欠乏性貧血	11
悪性リンパ腫	2
多血症	2
成人T細胞性白血症	1
N 感染症	
感冒・上気道炎	1
咽頭炎	1
肺炎	4
間質性肺炎	1
肺炎球菌肺炎	1
伝染性単核球症	1
帯状疱疹	1
梅毒	3
蜂窩織炎	2
菌血症	3
肺結核	1
胸膜肺炎	1
陳旧性梅毒	1
慢性咳嗽	1
不明熱	1

O 皮膚	
蕁麻疹	3
帯状疱疹後神経痛	1
尋常性ざ瘡	2
脂漏性皮膚炎	2
皮膚そう痒症	2
慢性膿皮症	1
P その他	
末梢性めまい	1
頚性めまい	1
ビタミンB12欠乏症	2
メニエール病	2
咽頭アミロイドーシス	1
マクロCPK血症	1
亜鉛欠乏症	1
花粉症	1
根尖性歯周炎	1
菊池病	1

―今年度の成果と反省点―

他診療科からの特に感染症診療についてのコンサルト件数の増加が認められた。当科医師はICT(Infection Control Team)およびAST(Antimicrobial Stewardship Team)活動を担っており、その活動については院内感染対策室の項に記載した。ICU/CCU入室の重症患者についても、主科の医師と協議し抗菌薬などの治療について検討するなど抗菌薬の適正使用の周知、徹底に努め、不適切使用はほとんど認められていない。

なお、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については院内感染対策室および感染症センターの項目に記載している。

―来年度への抱負―

地域からご紹介などの診断困難症例、不明熱、重症感染症患者および新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の治療にさらに尽力していきたい。また、他診療科とのさらなるコミュニケーションを図り、感染症診療においては今後も引き続き抗菌薬の適正使用に努めたい。

さらに、講演、学会発表、学術論文の作成など研究活動に一層力を入れていきたい。